

個人質問

37人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載
 全員の個人質問は市議会ホームページのインターネット議会中継で配信しています。

まちづくり

本市ならではの事業で地方創生

問 「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」における先駆性のある事業は。

答 岡山圏域共通のテーマなどに着目した「岡山を形作った光ある歴史・文化資源の発掘・発信事業」、都市の新たな魅力を創出する「（仮称）岡山国際現代芸術祭の開催」、本市の豊富な医療介護資源を生かした「ヘルスケア産業創出・育成事業」など、本市ならではの事業を実施することとしている。

戦略期間中、PDCAサイクルにより事業効果等を検証し、必要な見直しを行いながら事業展開していく。

新・岡山市総合計画には
 ワークショップの意見も反映

問 参加人数や出された意見などは。

答 市内4カ所で開催したまちづくりワークショップは、高校生から80歳まで幅広い年代の109人が参加。「岡山といえばこれ！というものを打ち出す」「幅広い年代の人が気軽に立ち寄れる場所づくり」など累計で150の意見が出された。



ワークショップの様子

その後開催した若者100人ワークショップには、20代を中心に高校生から40代まで88人の参加があり、若者の気概が感じられる勢いのある意見や「女性が輝いて仕事をする面では周辺環境の整備が必要」など、累計で54の意見が出た。

これらの意見をぜひ総合計画に反映させていきたい。

広域連携で医師不足に対応

問 連携中枢都市圏協議の中で、病院問題が議題となったか。また、本市はどのように関わっていくのか。

答 他の市町からは、岡山市立市民病院との連携による医師の派遣や地域医療を担う医師の育成などが提案されている。

市民病院では「医師不足の深刻な地域への医師派遣に努めること」を運営目標の一つとしており、平成27年度は真庭市や瀬戸内市などの4病院に医師を派遣している。また、公的医療機関の使命として人材育成にも力を入れており、将来的に地域医療を担う医師の安定的・継続的確保の一助になると考えている。

路面電車の岡山駅乗り入れ

問 方針と完成時期などは。

答 学識者、市民代表、経済界、交通事業者等で構成する「路面電車岡山駅前広場乗り入れ計画案調査検討会」の意見を参考に、平面乗り入れ、デッキ直線形、デッキ円形の3案に絞り、まず平面乗り入れの実現可能性について、軌道事業者、警察と駅前



多くの車が行きかう岡山駅前交差点

交差点の交通処理などの技術的な協議を行っている。

平成27年11月を目途に最終計画案を作成し、調査検討会や議会から意見を聴いた上で、28年度当初予算の計上に向けて取り組むとともに、完成予定時期も具体化していきたい。

市民も寄附しやすい
 ふるさと納税を

問 寄附金額と個人市民税から税額控除された件数・金額は。また、市民にもっと応援してもらえるものにできないか。

答 平成26年度は、地元特産品などお礼の品の送付を始めたところ、1,441件・約3,524万円の寄附があり、税額控除は744件・約1,257万円で、差引収支はプラスだった。27年度は8月末で6,682件・約9,920万円で、26年度と比べ、件数は4.6倍、金額は2.8倍の増加となっている。

なお、27年度から、応援したい行政分野を区分し、寄附の用途を選択してもらえるよう工夫している。このほか、既存の基金や個別の事業への個人の寄附も、税制上はふるさと納税の扱いとなるので、併せて案内するなど寄附しやすい環境づくりに取り組み、市民に応援してもらえるよう努めていく。

文化・子育て



旧福岡醤油建物（北区弓之町）

（仮称）岡山国際現代芸術祭 民間施設も会場候補に

問 開催内容・エリア等は。

答 平成28年10月から11月の秋季をメイン会期として、より深くアートに親しむプログラムや、鑑賞後に岡山の街も楽しんでもらえるイベントの開催などを検討している。

会場は、岡山城・後楽園周辺のコンパクトなエリアとし、後楽館天神校舎跡地、オリент美術館や天神山文化プラザなどの公共施設に加え、旧福岡醤油建物、シネマクレールなどの民間施設も候補として、絞り込みを進めている。

新しい文化芸術施設は いつも人が集まる施設に

問 誰もがいつでも気軽に立ち寄り、集い、憩える施設にするため、周囲に求めるものは。

答 新しい文化芸術施設（市民会館及び市民文化ホールの再整備）のあり方検討会では、ホール以外にもスタジオ、練習室、ギャラリー、カフェなどの機能が必要と指摘されている。

具体的な施設の機能はこれから基本構想等の中で議論していくが、周辺地域と一体となって常時、人が集まるような機能の充実に努めてもらうよう、民間に求めたい。

図書館を発展させるために サービスや運営の改革を

問 本の寄贈や雑誌スポンサー制度を積極的に活用しては。

答 将来にわたり多様な市民ニーズに応えるためには、図書の種類や冊数を確保していく必要があり、図書の寄贈や雑誌スポンサー制度の導入は有効な手段と考える。

寄贈については、10年程前から館内掲示やホームページで協力をお願いしており、平成26年度は約5,300冊の寄贈を受けた。

雑誌スポンサー制度は、その雑誌を手取る人にしか広告が目につれず、宣伝効果が薄いという課題があるが、スポンサー名を館内掲示やホームページで紹介するなど工夫を検討し、導入に向けて取り組んでいきたい。

市内30区域に 市立認定こども園を整備

問 区域設定と候補園選定の考え方は。また、施設整備のスケジュールは。

答 子ども・子育て支援新制度では、各市町村がそれぞれ教育・保育提供区域を設定することとされており、生活圏、地域活動エリア、行政単位などの案をもとに、岡山市子ども・子育て会議で意見を聞きながら、30区域を設定した。さらに各区域で、施設や設備状況、入園児童数などの施設選定基準を定め、候補となる施設を選定した。

今後は、平成31年度までに、施設の耐震化の必要性なども踏まえ、各区域ごとに地元や保護者等とできるだけ早期に協議し、

協議が整った区域から施設整備を進めていきたい。

保護者が育休中の保育園児の 継続通園は28年度から

問 育児休業中の保育園退園の取り扱い変更のスケジュールは。

答 この変更は、多くの保護者が1年間の育児休業を取得している現状から、生まれた子どもが満1歳になるまでは、上の子どもが引き続き保育園に通えるようにするもので、平成28年4月からの運用開始を目指し調整を進めている。

27年11月には保育利用ガイド、市民の広場おかやま、本市ホームページ、保育園等を通じて28年度の入園募集の案内を始めるが、併せて新しい運用についても情報提供を行っていく。

継続通園は受け皿増で決断

問 育児休業中の保育園退園を見直した経過は。

答 育児休業中の保育園児については、多くの保護者から継続的な通園を望む要望があった。一方で、入園を希望しても保育園に入れない子どもが市内に多数いたことから対応ができていなかった。

しかし、現在7カ所の私立認可保育園の新設や増設が行われており、平成28年春には425人の定員増が図られる予定となった。さらに、27年度に募集している小規模保育や事業所内保育でも、100人を超える定員が見込まれており、合わせて500人以上の受け皿が増える見通し。

これにより、育児休業中の退園見直しにより新たに増えるであろう170人の保育ニーズと、27年4月に発生した134人の待機児童の合計304人の受け皿として、全体としては十分対応ができると判断し、見直しを決めた。

スポーツ・暮らし

11月8日開催予定の

おかやまマラソンで情報発信

問 シティプロモーションにどのようにつなげていくのか。

答 大会前日から、シティライトスタジアム前広場で「おかやまマラソンEXPO2015」を開催し、ご当地グルメや特産品の販売、うらじゃのステージを行うなど、本市の情報発信を図る。

また、大会当日は参加ランナーに、中心市街地と南部の田園地帯が織りなすコントラストや、岡山城、後樂園周辺の観光地など本市の良さを最大限に体感してもらいたい。

おかやまマラソンは全国に本市を知ってもらう絶好の機会であり、マラソンのPRとともにシティプロモーションにもつなげたい。

東京オリンピックを
本市PRのきっかけに

問 大会を契機とした地方創生や経済活性化の取り組みは。

答 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、世界各国の代表選手の多くが国内で事前キャンプをすることが予想され、その誘致は本市を世界にPRする機会となる。現段階では情報収集等が主となるが、必要となればプロジェクトチームの設置も考える。

また、オリンピック開催時には、関東地方で他の大会や会議の受け入れ能力が相当低下するのではないかと考えており、コンベンション誘致にも取り組んでいきたい。

高齢者を孤立させない取り組み

問 孤独死を防ぐための見守りと協力体制は。

答 本市では、一人暮らしの高

齢者などに対し、安否確認を兼ねた配食サービス、自宅で急病等発生した場合に消防署へ通報が入る緊急通報システムを通じた見守りを行っている。

加えて、新聞配達、ガス・電気・水道検針、移動販売など、高齢者に身近なところで、仕事を通じて関わりを持っている13の事業者と協定を結ぶなど、異常を発見した場合に通報してもらう「岡山市高齢者・子どもの見守りネットワーク事業」を平成23年度から実施し、事業開始以来14件の通報実績がある。

小型家電リサイクル

3カ月で目標年間回収量を達成

問 平成27年1月から小型家電を資源化物として無料回収する小型家電リサイクルを開始した。

①回収実績と開始後に減った不燃ごみの量は。②目標の達成は。

答 ①27年1月から7月までの回収量は約240トン。資源化物の月2回収集など他の要素を含めての状況になるが、27年4月から6月までの不燃ごみの量は、26年同時期に比べ、84トン（約5.6%）の減となっている。

②当初は年間回収量を100トンと見込んでいたが、事業開始から3カ月で目標を達成したことから、27年度は目標年間回収量を400トンに上方修正している。

用水路のふた掛けは個別に判断

問 実施基準等は。

答 用水路は、泥上げや清掃などの維持管理の観点から、原則、※開渠とされている。

しかし、道路の拡幅が必要な場合で、沿道に家屋が連なっているなど用水路のふた掛けが最良と判断した場合は、農業水利

土木員など地元の人々と協議し、了承を得た上で実施している。道路に必要な幅員、沿道の状況、農業水利土木員等の意向などを踏まえ、箇所ごとに判断する。

災害ボランティアセンターは
訓練でスムーズな運営を

問 運営訓練等はどのようなスケジュールで実施するのか。

答 岡山市社会福祉協議会と協定を結んだ災害ボランティアセンターは、平成27年7月に、災害時に連携する関係機関やボランティア団体等とネットワーク会議を開催し、日常的に顔の見える関係づくりを始めた。

11月には、被災者とボランティアのマッチング等、スムーズな運営ができるよう災害ボランティアセンターの設置訓練を行うとともに、養成講座を開催し、ボランティアとコーディネーターの育成を図っていききたい。

吉備・陵南学区内の雨水対策

問 農業用排水機場の大規模な修繕はいつになるのか。

答 吉備・陵南学区内には農業用排水機場が5カ所あり、のふとも延友半役、はんにくま前の3カ所は、平成18年に施設の全面更新を行っている。残る白石、吉備排水機場については、設置から約40年が経過し老朽化が進んでいることから、27年度に機能診断・機能保全計画の策定を行っている。今後、その結果を受けて、具体的な長寿命化対策に着手していく予定。



半役排水機場

用語解説 ※5 【開渠（かいきょ）】

ふた無し、または簡単にふたをはずせる構造の水路